

2005（平成17）年度活動報告

組織の状況

〔1〕会員の状況

会員総数：123

地域組織 会員	名 称	分担金口数（所属会員数）	
	吉川日中友好協会	1口	（75人）
	新発田市日中友好協会	2口	（19団体；61人）
	栃尾日中友好協会	2口	（96人）
	中之口日中友好協会	1口	（57人）
	いわふね国際交流協会	1口	（5団体；54人）
	小計	5地域組織（7口）	
直 属 会 員	地域区分	会員数	個人会員数
		団体会員数 （会費口数）	
	下越地区	35団体（47口）	新潟市 67人 その他 6人
	中越地区		3人
	上越地区	2団体（3口）	3人
	県外		2人
小計	37団体（50口）	81人	
合 計	5地域組織（7口）	37団体（50口）	81人

上越日中友好協会：解散

（財）柏崎地域国際化協会：退会

会議開催経緯

〔 1 〕 第一回財政等検討委員会

開催期日：2005 年 5 月 24 日

会場：事務所

出席者数：6 名

議事：以下のとおり

- 1) 2004 年度決算案
- 2) 2005 年度予算案

〔 2 〕 第一回理事会

開催期日：2005 年 6 月 7 日

会場：新潟国際友好会館

出席者数：38 名（うち、委任状出席者 23 名）

議事：以下のとおり

- 1) 2005 年度総会に付議する事項の事前協議
 - (1)2004 年度活動報告案と決算案
 - (2)2005 年度活動計画案と予算案
 - (3)事務所移転に伴う定款の一部改訂案
 - (4)名誉会長の選任案
 - (5)理事の一部異動に伴う理事の選任案
 - (6)顧問の一部異動に伴う顧問の選任案
- 2) 2005 年度総会の日程・運営等
- 3) 「新潟・白音諾勒村 “ふれあいの森” 植樹の旅」実施について

〔 3 〕 2005 年度総会

開催期日：2005 年 6 月 26 日

会場：ホテル新潟

出席者数：125 名（うち、委任状出席者 72 名）

議事：以下のとおり

- 1) 2004 年度活動報告と決算並びに財産目録・貸借対照表の承認の件
- 2) 2005 年度活動計画と予算の承認の件
- 3) 定款の一部改訂承認の件
- 4) 理事の一部異動に伴う理事の選任
- 5) 顧問の一部異動に伴う顧問の選任

事業実施の方針

2004（平成16）年度に引き続き、以下の二点を重点とした事業を展開しました。事業展開に当たっては、会員・地域日中及び県民が参画し得る実施形態を執るよう努めました。

1）情報の発信活動

当協会の活動内容を分かりやすく伝えるとともに、日中友好活動に係る県内の動向を広くフォローアップする情報の発信に努めました。

2）草の根レベル開発協力事業の実施

黒龍江省の辺境・貧困地域の民生安定、生態環境の回復・保全、地域経済の向上に資する以下のプロジェクトに取り組みました。

“白音諾勒村^{ばいおんたくろく}小学校教育条件改善協力事業”

“嫩江^{のんこう}流域荒漠化地区生態林建設協力事業”

特定非営利活動に係る事業

情報の発信

〔1〕会報の発行

発行期日：2005年11月18日（第35号）

発行部数：750部

〔2〕インターネットによる情報の収集と発信

当協会のWebサイト <http://www.niigata-inet.or.jp/njcfa/>

〔3〕電子メール・FAXによる情報の伝達

草の根レベル開発協力事業の実施

〔1〕“白音諾勒村小学校教育条件改善協力事業”

1）事業内容：以下のとおり

「新潟・白音諾勒村“ふれあいの森”植樹の旅」に際し、白音諾勒村小学校への第二年次分協力金として日本円47万5,000円と人民元1,800円を持参し、白音諾勒村小学校への教育設備機器贈呈式を執り行いました。

第二年次分協力金により購入・設置した教育設備機器の内訳と金額、人民元の使途は、次のとおりです。

日本円 47 万 5,000 円

(1 元 = 13.456 日本円にて計算 端数処理)

机・椅子 (@180 元 × 100 組)	18,000 元	242,210 円
複写機 (@13,000 元 × 1 台)	13,000 元	174,930 円
OHP (@650 元 × 2 台)	1,300 元	17,490 円
顕微鏡 (@150 元 × 8 台)	1,200 元	16,150 円
録音機 (@300 元 × 6 台)	1,800 元	24,220 円

人民元 1,800 元

2004 年 6 月の第一年次協力金持参時に白音諾勒村小学校から協力を依頼された図書 (計 57 点) の購入資金に充てさせていただきました。

2) 付記 : 「新潟・国際協力ふれあい基金」助成事業として実施

3) 募金の継続

人民元の切り上げに備えた協力金目減りに対応するため、募金を継続しました
2005 年度内募金実績 : 以下のとおり

・上越日中友好協会 70,000 円

募金額累計 (2006 年 3 月末日現在) : 以下のとおり

・日本円 757,927 円

・人民元 3,278.99 元

〔 2 〕 “ 嫩江流域荒漠化地区生態林建設協力事業 ”

1) 「新潟・白音諾勒村 “ ふれあいの森 ” 植樹の旅」の実施

(1) 事業内容 : 以下のとおり

新潟県日中友好協会は、黒龍江省政府の強い要請を受け、同省西北部嫩江流域の荒漠化地区生態林建設協力事業に取り組んでまいりました。

2005 年 3 月、同事業は JICA “ 草の根技術協力 ” (地域提案型) 事業として採択され、2005 年度以降三年間にわたり専門家による技術協力が行われます。

このことを受け、専門家による技術協力にとどまらず、嫩江流域の荒漠化抑止に資するため新潟県と黒龍江省両県省民が文字通り手と手を携えて実施する事業に取り組むことといたしました。

黒龍江省大慶市の西に位置する杜爾伯特蒙古族自治县は、総面積の 27% が砂漠化し、経済的に立ち遅れた地域です。

なかでも同県白音諾勒郷は、森林率がわずか 5.4% に過ぎず、1998 年の大洪水以降旱魃や洪水が毎年のように繰り返す発生し、同県内でも砂漠化が最も著しい地域です。

特に白音諾勒郷白音諾勒村は、貧困人口が36%にも達することから日々の暮らしに腐心せざるを得ず、木を植え森を育てることが地域の持続可能な発展のため不可欠との認識は形成途上にあります。

このため、新潟・白音諾勒村“ふれあいの森”植樹の旅は、白音諾勒村民と手と手を取りあって植樹をするなかから、砂漠化の抑止に向けた自助事業が立ち上がることを願って企画しました。

白音諾勒村はまた、村民一人当たり年間純収入が400余元(日本円6,000円程度)にとどまり、村の子どもたちの義務教育条件の整備さえ難しい状況にあります。

新潟県日中友好協会は、県民の皆様からお寄せいただいた募金を基に、「新潟・国際協力ふれあい基金」の助成を得て、白音諾勒村小学校の教育条件改善事業に協力しています。

このことから、新潟・白音諾勒村“ふれあいの森”は、先ず白音諾勒村小学校の裏手に植樹することとしました。

- (2) 植樹の場所：白音諾勒村小学校裏手
- (3) 植樹面積：7 畝(約 47 a)
- (4) 植樹種：樟子松(ヨーロッパ赤松)
- (5) 植樹・維持管理等所要経費：以下のとおり

1 元 = 14.6 円

費目	計 算 式	元建金額	円建金額(端数整理)
整地費	111 株 / 1 畝 × 7 畝 × 0.5 元	388.5	5,670
苗木費	111 株 / 1 畝 × 7 畝 × 5.0 元	3,885.0	56,720
植栽費	(111 株 / 1 畝 × 7 畝 - 300 株) × 1.0 元	477.0	6,970
記念碑	一式	549.5	8,020
維持管理費	160.0 元 / 1 畝・年 × 7 畝 × 10 年	11,200.0	163,520
合 計		16,500.0	241,000

所要経費は、旅行参加者の協賛金及び新潟県国際交流協会の国際交流団体事業補助金により支弁し、白音諾勒郷人民政府に寄託しました。

- (6) 旅行企画：新潟県日中友好協会・黒龍江省人民政府外事弁公室・黒龍江省人民対外友好協会・黒龍江省林業庁
- (7) 旅行実施：(株)農協観光上越支店
- (8) 旅行期間：2005(平成17)年7月20日(水)～7月24日(日)
- (9) 旅行代金：136,000 円(新潟空港起点 出入国書類作成料・空港税別途)
- (10) 参加人員：18 名(伊藤忠雄新潟大学副学長・新潟県日中友好協会顧問、上山喜男新潟県日中友好協会副会長、奥村俊二新潟県日中友好協会理事長、ほか)
- (11) 付記：新潟県国際交流協会 国際交流団体補助事業として実施しました。

“白音諾勒村小学校教育条件改善協力事業”、「新潟・白音諾勒村“ふれあいの森”植樹の旅2005」に係る報告書等の全文は、新潟県日中友好協会 Web サイトに掲載しています。

- ・“白音諾勒村小学校教育条件改善協力事業”の経緯 報告書 (PDF)
<http://www.niigata-inet.or.jp/njcfa/bainulu-pj-report.pdf>
- ・“白音諾勒村小学校教育条件改善協力事業”の経緯 プレゼンテーション (PDF)
<http://www.niigata-inet.or.jp/njcfa/bainuru-pres.pdf>
- ・「白音諾勒村小学校教育条件改善協力事業」 2005 年度支援実績のご報告 (PDF)
<http://www.niigata-inet.or.jp/njcfa/bainulu-2005.pdf>
- ・「新潟・白音諾勒村“ふれあいの森”植樹の旅2005」 事業報告書 (PDF)
<http://www.niigata-inet.or.jp/njcfa/05fureaino-mori-houkoku-01.pdf>
参加者名簿 (PDF)
<http://www.niigata-inet.or.jp/njcfa/05fureaino-mori-houkoku-02.pdf>
事業実施状況写真 (PDF)
<http://www.niigata-inet.or.jp/njcfa/05fureaino-mori-houkoku-03.pdf>
支出証拠書類 (PDF)
<http://www.niigata-inet.or.jp/njcfa/05fureaino-mori-houkoku-04.pdf>
「新潟日报社」社説 (PDF)
<http://www.niigata-inet.or.jp/njcfa/05fureaino-mori-houkoku-05.pdf>
杜爾伯特蒙古族自治县电视台のニュース報道 (Windows Media Player)
<http://www.niigata-inet.or.jp/njcfa/avseq01.mpeg>
- ・「新潟・白音諾勒村“ふれあいの森”植樹の旅2005」事業報告 プレゼンテーション (PDF)
<http://www.niigata-inet.or.jp/njcfa/fureai-no-mori2005.pdf>

2) JICA「草の根技術協力」(地域提案型)委託事業“新潟県・黒龍江省 嫩江流域荒漠化地区生態林建設技術協力事業”への参画

- (1) 事業名：“新潟県・黒龍江省 嫩江流域荒漠化地区生態林建設技術協力事業”
- (2) 事業期間：2005（平成17）年度～2007（平成19）年度
- (3) 事業費：三年間 計14,803千円（2006年2月変更申請認可額）
- (4) 事業実施機関：“新潟県・黒龍江省 嫩江流域荒漠化地区生態林建設技術協力推進協議会”
- (5) 協議会の構成：新潟大学・新潟県・新潟県対外科学技術交流協会・新潟県日中友好協会
- (6) 協議会の役員：以下のとおり
 - ・会長 新潟大学副学長 伊藤忠雄
 - ・副会長 新潟県日中友好協会会長 長谷川義明

- ・ 監事 新潟県対外科学技術交流協会理事長 中山輝也
- ・ 構成員 新潟県国際交流課課長 田中 徹
- ・ 構成員 新潟県林政課課長 加茂田俊則

(7) 協議会事務局：新潟県日中友好協会

(8) 協力対象機関：黒龍江省林業庁（外資項目弁公室）

黒龍江省森林与環境科学研究院

(9) 背景と経緯：以下のとおり

中国北部の大平原に位置する嫩江流域は、長年にわたる森林の過伐や洪水による土砂の流失と堆積、寒冷と乾燥の厳しい気象条件によって広い範囲で砂漠化や農地の荒廃など、土地の荒漠化が進行している。

同流域では、1998年の大洪水以降旱魃と洪水が交互に繰り返し発生し、今なお経済的に貧しい地域が多い。

このため、安定した森林の造成は、荒漠化の抑制と生活環境の保全にとどまらず、地域経済の発展のためにも不可欠・緊急な課題である。

嫩江は黒龍江省の主要河川である松花江の最上流に位置し、河川水はアムール川を経て準閉鎖海域である日本海に注ぐ。

そのため、同流域に安定した森林を造成することは、日本海の海洋環境の保全にも貢献することとなる。

黒龍江省森林与環境科学研究院では、これまで選抜育種や品種改良等の研究によって、この地域でも良好な生育を示す樟子松や銀中楊など数種類の適応樹種を開発してきた。

しかし、単一樹種の森林ばかりが拡大することは環境の変化や病害虫に対する適応力に問題があるだけでなく、現在の中国の重要な林業政策となっている「生態優先を堅持しながら経済・社会の利益との統一を図る」ための生態林造成には至っていない。

そこで、この分野で森林研究所における研究や、県民運動としての植林に豊富な経験を有する新潟県が、黒龍江省政府の強い要請により、県内関係機関の協力によって対象地にふさわしい生態林建設のための調査研究を行い、その成果を黒龍江省森林与環境科学研究院を通して広く省内への普及を図るため、この事業に取り組むこととした。

このことによって、黒龍江省との友好関係はさらに強いものとなる。

(10) 事業の目的：以下のとおり

黒龍江省西北部嫩江流域の荒漠地における強風・飛砂・洪水等の被害防止や軽減、水源涵養等に効果を示す生態林建設技術と維持管理の向上に係る技術協力を行うことにより、森林資源の持続的利用、嫩江流域の農業生産性向上、地域経済活性化に寄与する。

(11) 事業の実施目標等：以下のとおり

この事業は、丘陵区、平原区、風沙区に応じた生態林造成ガイドラインの策定とガイドラインの実証試験、継続調査が可能な生態モデル林の造成を達成目標とする。

(12) 2005 年度に実施した事業：以下のとおり

専門家派遣による現地調査等（下表のとおり）

派遣期間	2005（平成 17）年 8 月 10 日～8 月 31 日
派遣人員	春日健一・野表昌夫・塚原雅美・今野正敏（以上 4 名 17 日間） 平田敏彦・権田 豊・目黒修治（以上 3 名 14 日間）
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ．調査試験区の設定 <ul style="list-style-type: none"> 1．既存防護林の林分内における対照区及び試験区（間伐区）の設定 齊齊哈爾市甘南県甘南林場（平原区） 齊齊哈爾市克山県北聯林場（丘陵区） 大慶市杜爾伯特蒙古族自治県新店林場（風沙区） 2．既存防護林の周辺における試験区（新規植栽区）の設定 齊齊哈爾市甘南県甘南林場（平原区） 齊齊哈爾市克山県北聯林場（丘陵区） 大慶市杜爾伯特蒙古族自治県新店林場（風沙区） ．現地調査と資料収集 <ul style="list-style-type: none"> 1．二次林並びに自然林の組成と構造調査 齊齊哈爾市克山県北聯林場にて二次林調査 五大連池市二龍山屯にて自然林調査 2．既存防護林の組成と構造調査 齊齊哈爾市甘南県甘南林場（平原区）にて落葉松防護林調査 齊齊哈爾市克山県北聯林場（丘陵区）にて樟子松防護林調査 大慶市杜爾伯特蒙古族自治県新店林場（風沙区）にて小黒楊防護林調査 3．土壌調査 試験区（間伐区） 齊齊哈爾市甘南県甘南林場（平原区）落葉松防護林内にて土壌調査 齊齊哈爾市克山県北聯林場（丘陵区）樟子松防護林内にて土壌調査 大慶市杜爾伯特蒙古族自治県新店林場（風沙区）小黒楊防護林内にて土壌調査 試験区（新規植栽区） 齊齊哈爾市甘南県甘南林場（平原区）にて土壌調査 齊齊哈爾市克山県北聯林場（丘陵区）にて土壌調査 大慶市杜爾伯特蒙古族自治県新店林場（風沙区）にて土壌調査 二次林・自然林 齊齊哈爾市克山県北聯林場にて二次林の土壌調査 五大連池市二龍山屯にて自然林の土壌調査
	．嫩江流域の環境に適した生態林の検討とその類型化

	<p>・試験区における育成環境整備など 試験区 における間伐手法、及び試験区 における追加植栽樹種と植栽方法並びに試験区 における新規植栽樹種と植栽方法についての連絡調整</p>
<p>問題点 対応策</p>	<p>落葉松防護林及び樟子松防護林は既に過密状態になっており、間伐を要する (対応策：間伐を実施し、以後の光環境改善状況等に基づいた経済林整備について専門家による現地指導並びに追跡調査・指導が必要)</p> <p>いずれの調査地とも土壌が非常に固い。杜爾伯特蒙古族自治县新店林場の周辺では、土壌表層の塩類集積が進んでいる。 (対応策：植栽の実施に際し耕起や畝立て整地などの土壌改善策を要し、以後引き続いて生態環境管理専門家による追跡調査・指導が必要)</p> <p>二次林・自然林においては、表層は固いが良好な腐植層が形成されている。化学性は良好。二龍山屯の自然林においては、20 cm ~ 40 cm程度まで植土層が良好に発達している。化学性は非常に良好。 植栽可能な樹種が極めて少ないため、日本で考えるほどの多様性を求めるのは難しい。調査区への自然侵入植物予測のため、周辺の種子散布源の調査が必要。 (対応策：植栽の実施に際し限られた樹種により多様性を確保するため、造林技術専門家並びに生態林造成専門家による植栽指導を要し、以後引き続いて生育メカニズム分析並びに森林管理技術の観点に立った専門家による追跡調査・指導が必要。)</p> <p>防護林と地域環境との関連や防護林の多面的活用検討のため、調査区周辺の土地利用状況や社会環境などの調査が必要 (対応策：防護林機能の総合評価の観点から、地域環境保全と林業との関係を専門領域とする研究者による調査区周辺の自然・社会・生活環境等の調査を要し、以後引き続き協議・指導が必要。)</p> <p>2006年冬季に試験区 において間伐を実施すること、2006年春季に試験区 における追加植栽並びに試験区 における新規植栽を実施すること、以上二点の合意事項について、現地にて実施状況を確認する必要がある。 (対応策：2006年4月中旬～下旬に現地にて実施状況の確認作業が必要。)</p>

初年度事業報告会

期日：2005年12月21日

会場：新潟県庁行政庁舎 1101 会議室

参加者：後藤菜穂 JICA 東京国際センター連携促進グループ員・伊藤忠雄推進協議会会長ほか、計 27 名

報告事項：「新潟県・黒竜江省 嫩江流域荒漠化地区生態林建設技術協力事業中間報告」

報告書全文は、新潟県日中友好協会 Web サイトに掲載しています。

- ・第一部 事業と調査試験区の概要 (PDF)

<http://www.niigata-inet.or.jp/njcfa/jica05-part01.pdf>

- ・第二部 現地調査・計画 (PDF)

<http://www.niigata-inet.or.jp/njcfa/jica05-part02.pdf>

- ・2006 年春季 植栽計画図 (PDF)

<http://www.niigata-inet.or.jp/njcfa/JICA06-04-plan.pdf>

- ・「新潟県・黒龍江省 嫩江流域荒漠化地区生態林建設技術協力事業」
2005 事業報告 プレゼンテーション (PDF)

<http://www.niigata-inet.or.jp/njcfa/jica-nengjiang2005.pdf>

(13) 2005 (平成 17) 年度決算：以下のとおり

収入決算額 3,198,201 円

支出決算額 3,171,808 円

収支差引残 26,393 円 (2006 年度繰越)

〔収入の部〕

(単位：円)

項 目	内 容	決算額	備 考
負担金	新潟県対外科学技術交流協会	10,000	
	新潟県日中友好協会	20,000	県国交協 国際交流団体事業補助
協力金	協力金	10,000	
JICA 委託料	専門家派遣経費	2,499,008	
	直接人件費	605,000	
雑収入	雑収入	54,193	
合 計		3,198,201	

〔支出の部〕

項 目	内 容	決算額	備 考
専門家派遣	航空賃ほか	2,499,008	
直接人件費	専門家人件費	605,000	
事務費	印鑑作成料・印紙代	17,800	
雑支出	雑支出	50,000	
合 計		3,171,808	

組織の拡充

〔 1 〕 会員の拡大

2006 年度新規入会者：個人会員 8 名

地域組織との連携

〔 1 〕 栃尾市日中友好協会総会への参加

2005 年 4 月 19 日 今野 正敏常任理事・事務局長

〔 2 〕 吉川日中友好協会総会への参加

2005 年 5 月 11 日 今野 正敏常任理事・事務局長

政治・経済・文化芸術・人事など各分野にわたる交流の促進

〔 1 〕 第 10 回日中友好交流会議への参加

主催：(社)日中友好協会・中日友好協会

共催：長野県日中友好協会

会期：2005 年 4 月 13 日～15 日

参加者：巾 昭常任理事

特記事項：黒龍江省外事弁公室代表の自費参加招聘

(代表の内訳...趙 爾力外事弁公室副主任・徐 廣明外事弁公室日本処処
長・劉 国軍外事弁公室日本処副処長)

〔 2 〕 トキ保護募金推進委員会への参画

総会への参加(2005 年 5 月 25 日 今野 正敏常任理事・事務局長)

〔 3 〕 “旅ロード 2005 in 新潟” 第 17 回「大中国展」の開催

主旨：以下のとおり

“旅ロード 2005” は、過去に新潟で 16 回、石川及び富山で 19 回の開催実績を持ち、毎回約 6 万人もの集客で賑わう人気イベント「大中国展」をリニューアルし、さらに魅力あるものとして展開しました。

主管：“旅ロード” 実行委員会・新潟県日中友好協会・石川県日中友好協会・富山県日中友好協会

“旅ロード” 実行委員会事務局：(株) イベント&コンベンションハウス内

新潟会場主催：新潟県日中友好協会

新潟会期・会場：2005 年 8 月 3 日～8 月 7 日 新潟市産業振興センター

場内構成：以下のとおり

「街と街、観光と物産で結ぶ旅」をテーマに、新潟と中国間の交流人口拡大に資するため、哈爾濱・上海・西安などの観光 PR ゾーンと特産品を紹介販売する物産ゾーンを設けました。

併せて、毎回好評の雑技団の公演と民芸品の制作実演コーナーを設けました。

新潟県日中友好協会が取り組む以下の二つのプロジェクトについて、プレゼンテーションを行いました。

- ・“白音諾勒村小学校教育条件改善協力事業”
- ・“嫩江流域荒漠化地区生態林建設協力事業”

入場者：約 37,000 人

売上高：2,300 万円

特記事項：中越地震チャリティーオークションを実施した結果 23,350 円の売り上げがあり、その全額を新潟県中越地震災害対策本部に義援金として寄付しました。

参考：新潟会期終了後、石川・富山にて展開

〔 4 〕 王毅 駐日中国大使講演会への参加

主催：新潟県・新潟市

期日：2005 年 10 月 28 日

会場：新潟市民プラザ

講演テーマ：「中国の発展と中日関係～中国が新潟に期待するもの～」

〔 5 〕 “食と花の世界フォーラム” 実行委員会への参画

主管：新潟市（産業経済局農林水産部）

主要事業：以下のとおり

・「食の国際シンポジウム」（2005 年 11 月 4 日 ホテル新潟）

・「食と花の提案は新潟から展」

（2005 年 11 月 5 日・6 日 新潟市産業振興センター）

新潟県日中友好協会は、同展の飲食ゾーンに『中国コーナー』を出展しました。

〔 6 〕 留学生公募事業との連携

主管：（社）日中友好協会

公募期間：2005 年 11 月 7 日～2006 年 2 月 10 日

募集要項等は新潟県日中友好協会の Web サイトに掲載しました。

- ・2006 年 9 月入学公費留学生を 2005 年 11 月 7 日から公募します（PDF）

<http://www.niigata-inet.or.jp/njcf/2006-kouhi-ryuugaku.pdf>

〔 7 〕 哈爾濱工業大学代表との懇談並びに企業間提携システム共同構築についての提案

1) 哈爾濱工業大学代表との懇談

期日：2005 年 12 月 11 日

懇談事項：哈爾濱工業大学と新潟側企業との企業間提携について

懇談者：先方 = 王 福平哈爾濱工業大学副校長、他

当方 = 鎌田 佳和常任理事・今野 正敏常任理事・事務局長

2) 企業間提携システム共同構築についての提案

提案期日：2006 年 2 月 21 日

提案内容：企業間提携 Web サイトの共同構築（日中両国語）

進捗状況：哈爾濱工業大学傘下主要企業のリーフレット等入手し、解析作業中

〔 8 〕 新潟県・黒竜江省定期会議への参画

主管：新潟県（国際交流課）

期日：2006 年 2 月 14 日

会場：新潟県庁行政庁舎 403 会議室

事業内容：下記のとおり

黒龍江省外事弁公室代表との 2006 年度事業に関する協議

以下の三案件について意見交換、協議しました。

“ 新潟県・黒竜江省 嫩江流域荒漠化地区生態林建設技術協力事業 ”

“ 白音諾勒村小学校教育条件改善協力事業 ”

“ 新潟・白音諾勒村「ふれあいの森」植樹の旅 ”

黒龍江省外事弁公室代表との懇親会

2006 年 2 月 14 日 18 時～ 張園けやき通店

〔 9 〕 中国交流推進戦略会議への参画

主管：新潟県（国際交流課）

期日：2006 年 3 月 14 日

会場：自治会館 901 会議室

内容： セミナー…「中国の反日感情とどう向き合うか」

意見交換…庁内関係課及び庁外団体等の交流事業について

出席者：今野 正敏常任理事・事務局長

関係機関・友好団体との連携

1) 新潟・哈爾濱經濟技術交流促進協会

同協会 Web サイトコンテンツ制作業務の受託

2005 年度に受託制作したコンテンツは以下の Web サイトに掲載
しています。

- ・ハルビン最新市街地図

<http://www.ncipd.jp/harbin/new%20map/harbin-map-top.html>

- ・ハルビンビジネス情報

ハルビン企業情報

<http://www.ncipd.jp/harbin/kigyoku/kigyoku01.html>

- 2) 新潟県日中経済交流懇話会

同懇話会解散総会への参加

2005 年 9 月 30 日 今野 正敏常任理事・事務局長

同懇話会の残余財産の一部、金 500,000 円を新潟県日中友好協会にご寄付
いただきました。

- 3) 中国総領事館新潟誘致促進協議会

- 4) 新潟県国際交流協会

- 5) 環日本海経済研究所 (ERINA)

- 6) 新潟県対外科学技術交流協会

- 7) 新潟・哈爾濱友好市民の会

- 8) 「クロスパルにいがた」共同利用室連絡協議会

収益事業

実施した収益事業はありません。